

若年層の声

【JR鹿沼駅周辺の治安】

高校生から「駅周辺の治安が悪いので改善してほしい」と意見があり、現地で聞き取をしてみると未成年の喫煙や、バイクの騒音、不審者のつきまといなど、課題が見えてきました。駅周辺では、少年指導員7班がコースを変えながら月2回巡回して下さっていますが、指導実績はありませんでした。引き続き関係機関と連携を図り、青少年の早期指導に努めますとの答弁でした。

+ 要望 防犯パトロールの強化と
駅周辺に高校生の居場所(学習スペース)を整備してほしい

【公共施設へのWi-Fi整備】

コミュニティセンター等の公共施設へのWi-Fi整備を求めて質問しました。鹿沼ケーブルテレビの協力の元、現在行われている加蘇と菊沢コミュニティセンターでの公共Wi-Fi実証実験の結果をみて検討するとの答弁がありました。

+ 要望 情報センターやコミセン等の主な公共施設には早急に
Wi-Fiを整備してほしい

【若年層の投票率向上】

親子連れ投票を推進し、投票立会人に高校生等の若者を起用することになりました。

+ 要望 投票所までいけない方のために、移動投票所を開設してほしい

誰よりも身近な市議を目指します!

石川さやか ってこんなひと♪

1977年生まれ

聖母幼稚園・鹿沼市立北小学校・鹿沼市立西中学校・栃木県立鹿沼高等学校卒。
栃木県立衛生福祉大学卒。鶴見大学歯学部歯科技工研修科卒。

- 驚くほどに前向き(精神的打撃はプラスに変換するか、きれいさっぱり忘れられる。)
- 気づき即行(気付いたことはすぐ行動。チャレンジ精神旺盛です。)
- 人の長所を見抜くこと(人のいいところを見て、多様性を大切にしています。)
- とっても力持ち(精米所まで30kgのお米を軽々と運んでいると二度見されます。)

【現在の活動】

●広報広聴委員会委員長(鹿沼市議会) ●ケアパートナー宇都宮・ヘルパーステーション勤務 ●鹿沼市放課後子ども教室支援員(鹿沼北小学校) ●日吉保育園評議員 ●とこしえ保育園(TKC企業内保育園)第三者委員 ●きれいなまちづくり推進委員(天神町) ●更生保護女性会会員 ●エコネットかぬま会員 ●傾聴ボランティア「ありのまま」会員 ●災害ボランティア「チームかぬま」会員 ●にほんごボランティア「そばちょこ」会員

【来歴】

●栃木県立鹿沼高等学校PTA会長 ●天神町こども育成会会長 ●日吉保育園保護者会長 ●鹿沼中央ロータリークラブ会長 ●鹿沼地区歯科技工士会会長 ●NPO法人鹿沼市民活動広場ふらっと理事 ●NPO法人栃木かぬま教育支援ネットワーク薬副代表理事 ●男女共同参画情報誌かれんと副編集長 ●鹿沼市議会議会運営委員会副委員長 ●総務常任委員会及び文教民生常任委員会委員長 ●全国自治体議員行財政自主研究会会計



鹿沼市議会議員 石川さやかの

さわやか通信

2期8年を振り返って

2015年9月、37歳で初めて市議会議員選挙に立候補した当時、夫は海外に単身赴任中でしたので、いろいろな方に助けていただきながらも、基本的にはひとりで3人の子育てをしながら慣れない議会活動に奮闘しておりました。

あれから8年が経過し、小学生だった息子は栃木高校3年生に、長男は慶応義塾大学に進学し親元を離れ、長女は白鷗大学の4年生に、来春には社会人になります。

あんなにてんてこ舞いだった「子育ての嵐」は嘘のように過ぎ去りました。

また、長年勤務した歯科医院を退職し、コロナ禍の巣ごもり期間中に介護士の資格を取得。宇都宮市の介護事業所に就職し、毎週土曜日の半日だけですが、訪問介護の仕事をして早3年になります。

なぜ「介護士」かと言いますと、「子育てがやっとひと段落!と思ったら今度は親の介護…」という声と同世代でも多く聞かれるようになり、介護する側もされる側も、みんなの幸せを願うと、超高齢社会では「介護保険制度」を熟知し、課題を見抜くことも市議として必須だと感じたからです。

2期目の4年間は、年4回の市政一般質問を一度も欠かさず、全力で行うことが出来ました。今後も「子育て、教育、環境」の問題をライフワークとし、それと同じくらい「だれもが自分らしく人生の最期を迎えられる社会を目指す」ことも大切に、活動していきたいと思っています。

3期目の挑戦はまだまだ続きますが、どうか皆様のあたたかいご指導、変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

ご案内

石川さやか市政報告会 7月1日(土) 14:00~15:30頃まで
商工会議所アザレアホール

市政報告会への参加は申込み不要です。皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

7月議会傍聴 7月26日(水) 27日(木) 28日(金) 10:00~
鹿沼市議会議場

9月3日の市議会議員選挙前、最後の市政一般質問となります。
日程等の詳細は、鹿沼市HPまたは議会事務局にお電話にてご確認ください。
(議会事務局 0289-63-2202)



さわやか通信
NO.6

発行・石川さやか後援会
発行責任者・石川さやか
〒322-1006 栃木県鹿沼市天神町1706-17
電話・FAX 0289(63)1127
メール saya26ka45@gmail.com
2023年6月発行



ホームページ

2期目4年間の
質問内容と成果
+ 今後要望していきたいこと

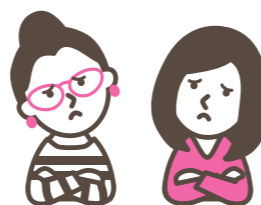
子育て・教育環境

子どもの遊び場

【ヤオハンいちごパーク(鹿沼運動公園)のトレーニング室の充実について】

繰り返し議会質問し、新しい遊具設置のための予算200万円が2023年度当初予算に計上しました。

「遊具を充実してほしいと10年以上前に当時の議員さんに要望したけど変わらない」と子育てグループの皆様から相談を受けていました。



+ 要望 運動公園プールも含め、施設全体の改修を検討してほしい

【富士山公園遊具と園道グリーンベルトの危険性について】

木製遊具は経年劣化で部分的に使用禁止となり、山頂までの園道のグリーンベルトも特に雨の後は滑りやすく危険でした。遊具については現地の地形を生かした滑り台やアスレチック機能を有した金属製の遊具に更新され、グリーンベルトは表面5mmを切削することで粗面にし、転倒事故防止措置を施してもらいました。

+ 要望 大きくなりすぎた樹木の剪定など、管理の行き届いた公園にしてほしい

【いちごっこ広場(花木センター内)の有料化について】

2022年から100円の入場料を取る議案について、利用者の声をお聞きし、小山市や足利市を視察して一般質問でとりあげました。結果的に入場料徴収は1年間延期され、2023年4月から有料化となりましたが、ヒノキのボールプールが再開し、新たな木のお家や大型ソフトブロックなどが設置されました。

+ 要望 定期的な遊具の更新を行うことでリピーターを増やしてほしい



ヤオハンいちごパーク(運動公園)



富士山公園



いちごっこ広場(花木センター内)

【さつきが丘小学校 学童施設の建替えについて】

「最低でもトイレを洋式化してほしい」(保護者)
「建て替えの話はどうなっているのか」(支援員)などの声がありました。プレハブ造り(築41年)のさつきが丘小学校の学童保育施設を初めて訪問し、雨漏りの現状やぶかぶかの床、廊下の危険個所を確認して質問でとりあげました。2023年度当初予算に学童施設(木造2階建て)建替えの予算約1億9千万円が計上され、環境の充実が図られることになりました。

【学童(放課後児童クラブ)支援員の処遇改善】

学童支援員は勤務時間が不安定で、重要な仕事にもかかわらず現場は人材不足で困っています。コロナ禍の社会を支えてきた支援員の処遇改善をしてほしいと質問しました。2022年2月から国県市の処遇改善事業(時給換算で70~90円相当)の委託金増額に加え、2023年度からは市単独で時給換算50円相当を増額する予算が計上されました。

+ 要望 学童支援員確保のサポートをしてほしい

【保育園の一時預かり(※)について】

利用申込みのため電話をしても何か所も断られてしまうという声を聞いています。空き情報の閲覧や利用登録ができるシステムを求めたところ、「将来的課題として調査研究していく」との答弁でした。

※こどもが保育園に入所していない場合、親が体調不良やリフレッシュのために一時保育を利用できる事業です。

+ 要望 大田原市や宇都宮市、佐野市のように困ったときにいつでもお願いできる「一時預かりセンター」を整備してほしい

【0, 1, 2歳児の保育を行う小規模保育事業施設について】

小規模保育事業施設は、3歳児から別の園に転園させる必要があることに、保護者は不安を感じています。連携施設への入園はかなり優先され、連携施設以外で希望する園があった場合にも大きな加点(5点)があることを、市としてももっとPRするとのことでした。

+ 要望 小規模保育事業施設への更なる加点と、年度途中入所支援事業の予算を増額してほしい

【エアコン整備】

国の地方創生臨時交付金を活用し、こじか保育園、西保育園、南保育園、南摩保育園、津田小学童、西小学童、南押原学童に十分な換気機能のついたエアコンが整備されました。

小中学校のエアコン整備については普通教室が優先で、特別教室(音楽室や理科室)は、暑さ寒さの中でずっと大変な思いをされていましたが、2023年度予算で全中学校の特別教室にエアコン整備が決定しました。

+ 要望 修繕に関する要望のあった学校には、2年に一度は現場に出向き、継続的な対応をしてほしい

+ 要望 小中学校体育館へのエアコンを整備してほしい



医療・福祉

【英検受験環境の整備・補助の充実】

2016年から通算5回の質問で、ついに全中学校で英検を実施する環境が整備され、更に要保護・準要保護児童生徒が英検3級を受験する場合、半額の2400円を2022年度から助成することになりました。

「学校で受けられるならダメもとで!と受けさせたら3級に合格しました」、「苦手な英語なのに3級に合格して自信が持てました」など嬉しい声をいただきました。



【学校給食費の徴収方法】

学校の負担が大きかった「過年度滞納分給食費の徴収・管理」については、2021年度より市で行うことに。公会計制度の採用については、「課題を整理しながら他市の動向を注視していく」との答弁でした。

【スクールバスの利活用】

一般の方のスクールバスの混乗について2010年に議論がありましたが、頓挫した経緯があります。

+ **要望** 教育委員会と市民部が連携し、スクールバスの混乗等、柔軟な対応を協議してほしい

+ **要望** 粟野地区在住の高校生には、バス利用の有無に関わらず積極的に公共交通に関するニーズ調査を実施してほしい



【鹿沼城跡発掘調査】

新庁舎建設のための発掘調査で発見された障子堀は、県内で初めて確認された貴重な遺構で、説明会で多くの方が見学しました。何かしらの方法で障子堀を見える形で残すことができないか質問し、埋め戻すことにはなりませんが、障子堀の表面をシートで覆ったことで、将来の研究・保存に希望を持つことができました。また、元・中央小学校教頭の杉浦先生が鹿沼城のジオラマ模型を制作され、新庁舎ロビーに一定期間展示されたことで、鹿沼城を広く知っていただくことになりました。

コロナ禍の対応

【児童生徒1人1台タブレットの活用と学びの保証】

オンライン授業を実施できた小中学校は約70%、不登校児童生徒の対応は約50%。タブレットの持ち帰り学習推進に向けて、フィルタリングの見直しやネットへの接続時間帯の設定等の準備を勧め、持ち帰り活用に関しては、推進校を設定し、水平展開する予定だそうです。

+ **要望** タブレットの持ち帰り学習や、不登校児童生徒へのオンライン授業を推進してほしい



【小中学校給食における感染症対策】

直接手が触れるパンに関しては、一部の市で実施している個包装にしてほしいと質問し、コロナ関連の交付金で実現できました。「パンがしっとりして美味しくなった」という嬉しい声もお聞きしています。

【図書館運営】

宇都宮市立図書館などの運営と比較し、本市は全ての椅子が撤去され、新聞も読めませんでした。コロナ禍でも少しずつ運営を見直してほしいと質問しました。また、利用する市民と図書等を扱う職員の安全・安心のため図書館本館に図書の消毒機導入が決まりました。

【子ども医療費助成制度の拡充について】

「部活で怪我した際の通院や、ぜんそくの薬代、歯科治療など、高校生からは医療費がかかるので受診をためらってしまう」(保護者)、「日光市は無料なのになぜ鹿沼市は中学生までしか助成されないのか」(高校生)という声をたくさん頂いていました。会派からの要望書として2年連続で「子ども医療費助成拡大」を市長に提出・質問し、ついに2023年度から高校3年生相当年齢まで、子ども医療費が助成されることになりました。

【こどもの視力検査について】

私の息子が3歳児健診で極度の遠視(弱視)が見落とされてしまった経緯があり、弱視の早期発見のための検査機器導入の一般質問を行った翌年、視覚屈折検査導入の成果について質問しました。「従来の検査方法では判定できなかった29人を判定することができて、大きな効果が得られました」と答弁しています。



スポットビジョンスクリーナー

【インフルエンザ予防接種費用の助成】

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行を避け、適正な医療体制を確保するため、2022年度限定ですが、中学生まで2200円が助成されることになりました。

+ **要望** 中学生までの助成を継続、もしくは高校生までの助成に拡大してほしい

【健康マイレージ制度】

本市の健康マイレージ制度は、健診受診や健康講座への参加でポイントをためると、当初は1500円の商品券が500人に当たるという事業でした。2023年度は、商品券の1等を15000円にするなど、金額にメリハリをつけ、分かりやすい内容のパンフレットに改善されつつあります。



+ **要望** 足利市の取り組み(ポイントをコンビニのコーヒーや学校の図書代にする)を参考に制度を改善してほしい

+ **要望** 公園に健康遊具を設置し、健康増進に努めてほしい

【介護予防・日常生活支援総合事業】

通所型サービスAは通常の介護事業所よりも報酬単価が低く、これまで参入の相談がほとんどありませんでした。そのような中で通所型サービスAを導入する場合、全ての市民が利用できる体制を整えるため、多くの事業所に参入いただけるかが課題です。



【鹿沼市成年後見センター】

認知症患者が急増する中、専門職後見人の不足を見越して、市民後見人を養成している小樽市や栃木市を視察し、その必要性について質問しました。先駆的に実施している県内他市の情報を収集し、検討を重ねますとの答弁でした。

+ **要望** 専門職、親族、法人、市民後見人 それぞれの強みを発揮できるような体制作りを進めてほしい

環境



【間違っただごみ分別の事例について】

2015年の初当選後、初めての一般質問から通算8回ごみ処理に関する質問を重ねました。間違いやすいプラごみの分別方法や、施設の火災に繋がる危険ごみの現状について明らかにすることができました。

クリーンセンターに何度も足を運び、プラごみの分別作業を実際に体験し、「こんなことをする議員は初めて見た」と現場の職員さんにびっくりされたことも。

【クリーンセンターへの持ち込みごみの課題について】

年々増加する家庭からの持ち込みごみは、未分別のものや他市からの不正搬入、事業ごみと疑われるものがあり、コロナ禍で搬入を抑制せざるを得ない状況でした。持ち込みごみの有料化や分別区分の見直しとあわせて、祝日のごみ収集を開始しました。

【ごみ収集の問題について】

ごみステーションの集約を進めるため、集約する経費の半額(上限7万円)が補助される制度の周知が不十分です。また、ごみ出しが困難な方の戸別収集と安否確認を行う事業の利用者も年々増加しています。

+ **要望** 戸別収集にも限界があるので、介護保険制度の中でヘルパーがごみ出しを行えるよう、収集時間帯の変更や夜間収集も含めて検討してほしい

【ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の導入】

アプリを開いていなくてもその日のごみ出しの詳細が受け取れたり、ごみの品名から分別内容を検索できる便利なアプリが2023年4月より運用開始されました。



【フードロス対策サービス たべまるbyタベスケ】

賞味期限の近い商品を値下げして出品するお店と、市民をマッチングするサービスが2023度より本格的にスタートしました。県内初の取り組みで、協力店と登録者両方の増加が課題です。



+ **要望** 県内他市と連携し、協力店舗数を増やしてほしい

【ふるさとかぬまの生き物図鑑】

2020年に、県立博物館監修のもと、鹿沼自然観察会の皆様を中心に地域限定の動植物6000種のうち1209種を紹介する図鑑が発刊。全国的にみても珍しく、冊子版の他にデジタル版も小中学校のタブレット用教材として活用されています。



+ **要望** 続編を刊行してほしい

【放置自転車のリユース】

リサイクルショップぶうめらんでは、2020年から放置自転車の一部を含むリユース自転車の販売を開始し、これまでに100台を販売しました。放置自転車は販売までに手続き上約1年間雨ざらしになっていましたが、質問後はシートで自転車を覆うことになり、保管環境が改善されました。また、高校卒業時に自転車を放置しないよう市内の高校に協力を依頼し、リユースを促進しています。

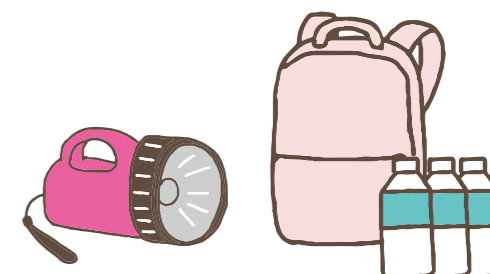


【いちご市プラごみゼロ運動について】

地元企業との連携を図り、プラスチック代替品の開発や、おもちゃのリユース事業、地域限定プラスチックリサイクル事業の検討を進めています。2022年にサントリー、ジャパンテックと協定を結び、地域限定ペットボトルリサイクルB to B(ペットボトルからペットボトルへのリサイクル)を推進しています。

+ **要望** プラ資源循環推進法により努力義務化された「プラスチック製品」のリサイクルを推進してほしい

防災・男女共同参画



【福祉避難所について】

2019年台風の際に、本市は福祉避難所が開設されませんでした。地域のガイドラインを策定し、避難が困難な方が確実に避難できる体制を整えてほしいと質問しました。今後一般の避難所の見直しも含めて早急に取り組みたいとの回答でした。

+ **要望** 福祉避難所を分かりやすく周知してほしい

【ペットの同行避難】

避難所14カ所中9カ所で犬10匹猫3匹の同行避難がありました。ペットの同行避難について、市民の皆様にご存知かどうかと質問しました。



【黒川河川内のふれあい橋】

台風19号の際、福田屋近くのふれあい橋(幅員2m延長40m)に流木やごみがかかり、河川の流れを大きく乱したことも被害拡大の原因と考えられています。市として今後は復旧しないよう県に要望しています。

【長期避難生活下の健康管理】

各避難所に1つ、バイタルチェックのひとつとして血中酸素濃度を測るパルスオキシメーターの配備を提案。自宅療養者のためのパルスオキシメータ50個を購入し、避難所を巡回する保健師が持参して健康観察を行います。

【災害対策に携わる女性職員、地域防災会議等の女性の割合】

災害対策本部は17名全員が男性、危機管理課の職員も5名全員が男性、地域防災会議は37名の内女性が1名のみでした。国のガイドラインでは女性3割を目指しており、男性と女性のニーズに配慮した防災対策の強化を図るため最適な男女比が必要です。現在部長級の女性が2名となり、危機管理課にも1名女性が配属。

【災害時の女性や子どもに対する暴力の防止】

避難所は複数の職員が24時間体制で避難者の安全確保に当たっています。
→各避難所への啓発ポスターと、トイレの入り口に携帯用防犯ブザーが配備されました。

【DV被害者の支援体制】

女性相談員の増員と、DV被害者支援を行う民間団体への補助金の増額を質問してから5年が経過し、女性相談員1名の増員と、かつて減額された1万円を元に戻して9万円から10万円にできました。